

アフターサービスについて

1. この商品には保証書を本取扱説明書巻末に添付しております。所定の事項の記入および記載内容をご確認のうえ大切に保管してください。
2. 保証期間はご購入上げ日より1年間です。保証書の記載内容によりご購入上げ販売店が修理致します。その他、詳細は保証書をご覧ください。
3. 保証期間が切れましても、修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。
4. アフターサービスについてご不明の場合は、ご購入上げの販売店またはもよりの営業所にお問い合わせください。

仕様

■立奏木琴

	SX-370L・SX-370H (ソプラノ・アルト)	AX-420L・AX-420H (アルト・テナー)	TX-420L・TX-420H (テナー・バス)
音域	c ² ～c ⁵ 37鍵(3オクターブ)	c ¹ ～f ⁴ 42鍵(3・1/2オクターブ)	c～f ³ 42鍵(3・1/2オクターブ)
音板	高級ウッド材	高級ウッド材	高級ウッド材
共鳴管	シルバースチール	シルバースチール	アルミ
寸法 (幅・奥行・高さ)	113×53.4× ⁶⁰ / ₈₀ cm(SX-370L) 80cm(SX-370H)	130×65× ⁶¹ / ₈₁ cm(AX-420L) 81cm(AX-420H)	138×78× ⁷² / ₈₂ cm(TX-420L) 82cm(TX-420H)
重さ	18kg	22kg	35kg
付属品	カバー・マレット付(SP-521)	カバー・マレット付(SP-541)	カバー・マレット付(SP-531)

■立奏鉄琴

	AM-370L・AM-370H(アルト)	AM-370YL・AM-370YH(アルト)
音域	c ¹ ～c ⁴ 37鍵(3オクターブ)	c ¹ ～c ⁴ 37鍵(3オクターブ)
音板	高力アルミ合金	高力アルミ合金
共鳴管	シルバースチール	シルバースチール
寸法 (幅・奥行・高さ)	115×65× ⁶¹ / ₈₁ cm(AM-370L) 81cm(AM-370H)	115×57× ⁶¹ / ₈₁ cm(AM-370YL) 81cm(AM-370YH)
重さ	35kg	34kg
付属品	カバー・マレット付(SP-531)	カバー・マレット付(SM-03)・ダンパーフェルト2枚

株式会社 鈴木楽器製作所

〒430-0852 静岡県浜松市中区領家2-25-12 ☎(053) 461-2325

事務所移転等のため、上記住所・電話番号が変わる場合がございます。
最新の情報に関しましては、弊社ホームページをご覧ください。



立奏木琴・立奏鉄琴 取扱説明書

対応機種

立奏木琴 SX-370L・SX-370H / AX-420L・AX-420H
TX-420L・TX-420H

立奏鉄琴 AM-370L・AM-370H / AM-370YL・AM-370YH

この度はスズキ立奏木琴・立奏鉄琴をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本製品を末永く、そして安全に正しく組み立て・ご使用いただくため、この取扱説明書をよくお読みください。お読みになった取扱説明書はなくさないよう、大切に保管してください。

⚠ 使用上の注意

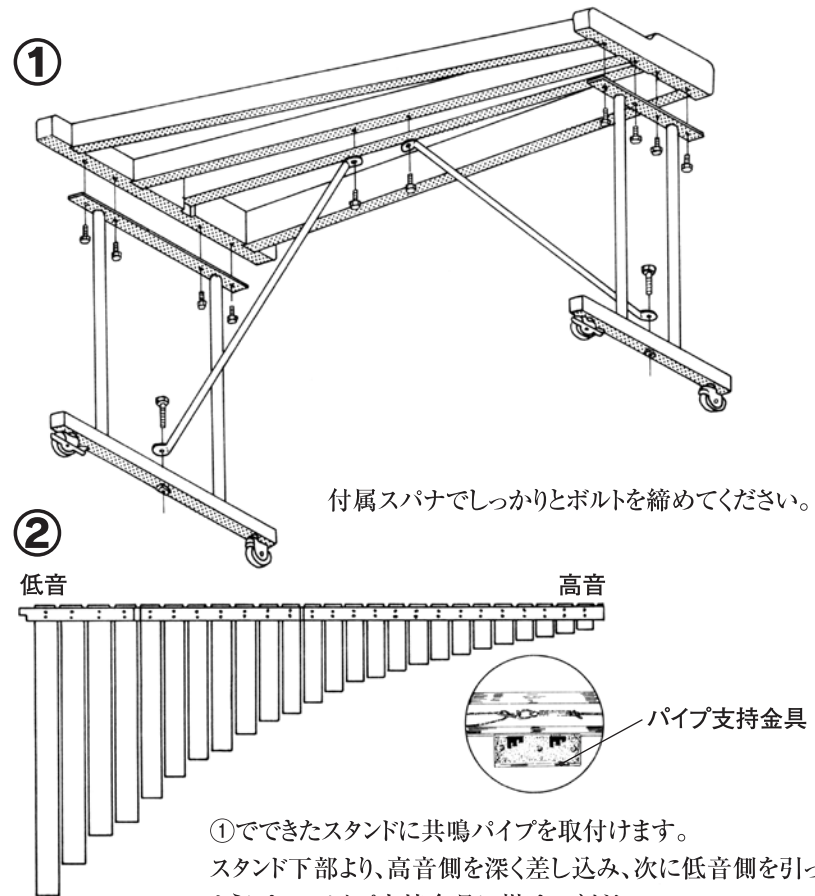
安全に末永くご使用いただくため、以下の指示を必ずお守りください。

・音板の中央部は調律されて薄くなっています。音板の上に乗ったり、遊んだりしないでください。また、マレット以外の重いもの、角ばったもの、金属などでたたかないでください。音板をいためる原因になります。

・音板がよごれたら乾いたやわらかい布で拭いてください。油類(シンナー・ベンジン等)は使わないでください。音板表面をいためる原因になります。

・移動する時は、静かに運ぶように心掛けてください。大型のキャスター付ですが、障害物の有る所は持ち上げるようにしてください。

SX-370/AT-420/TX-420/AM-370Yの組み立て方



付属スパナでしっかりとボルトを締めてください。

①でできたスタンドに共鳴パイプを取付けます。
スタンド下部より、高音側を深く差し込み、次に低音側を引っ張る
ようにしてパイプ支持金具に掛けてください。
パイプ支持金具の溝は階段状になっています。
室温によりパイプを上下させ(室温が高いときはパイプを上げる)、
一番共鳴の良い位置をお選びください。

AM-370YL・AM-370YHについて



立奏木琴はダンパーによって音を伸ばしたり止めたりすることができますが、AM-370YL・AM-370YHはダンパーの代わりに、フェルトによってソフトに音止めをすることで適度な残響を得られるようにしたモデルです。

AM-370の組み立て方

- ① 本体の低音側を床につけて立てます。
- ② 両側の脚を開き④を取り付けます。
 - ・ペダルが奏者側にくるように④をセットします。
 - ・まず、両側の脚の穴からネジを通し④のネジに軽く止めてください。
- ③ ⑤を取り付けます。
 - ・⑤の一方の穴と低音側脚の穴にネジを通し、軽く止めてください。
 - ・本体の裏中央部のネジを一度取りはずし、⑤のもう一方の端を取り付けます。
- ④ ネジをしっかりと締め付けます。
 - ・付属の六角レンチで④・⑤・6ヶ所のネジを締め付けてください。
- ⑤ 楽器を起こします。
- ⑥ ⑥をペダルに取り付けます。
 - ・ペダルのジョイント部に付いているネジを一度取りはずします。
 - ・図Iのようにネジは角穴の方から差し込み蝶ナットを締め付けてください。
- ⑦ ⑦をダンパーのジョイント金具に連結します。
 - ・図IIのようにネジは角穴の方から差し込んで締め付けます。
- ⑧ 共鳴パイプを取り付けます。
 - ・本体の下から先ず高音側をハンガー上段に載せてから低音側もハンガーに載せ、高音側は下段に落としてください。

調整方法

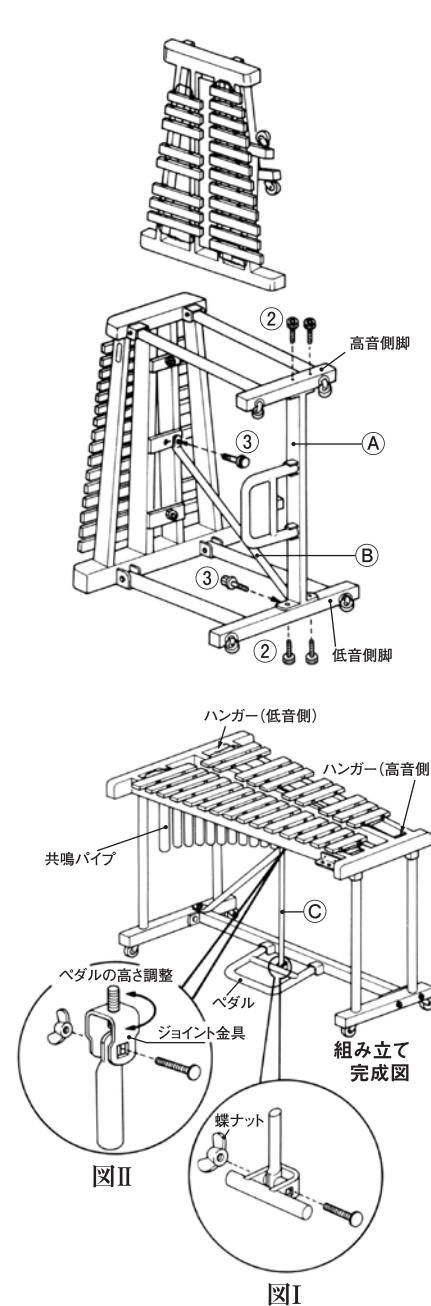
(新品時にはそのままご使用頂けるよう調整されています。)

・ペダルの高さの調整

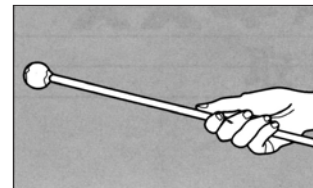
図IIのネジを一度取りはずしジョイント金具を回転させます。ジョイント金具の下ナットは調整後、必ず締め付けてください。

・ダンパー効果の調整

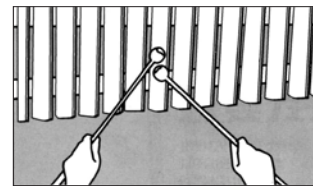
本体裏の左右2ヶ所にある調節つまみを回転させます。低音域と高音域のバランスをとるように必ず2ヶ所のつまみ調整を行なってください。



マレットの持ち方

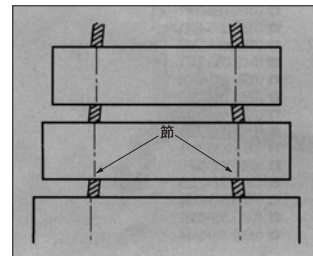


柄の端から約1/3のあたりを親指と人差指の第2関節の間に挟み、他の指は軽く柄にそえます。
左右とも同じように持ちます。腕を水平にした時、マレットが音板から12～15cmの高さになるのが普通で、この位置から打ちおろします。



腕の角度はお互いに60°～90°くらいになるようにします。

音板を打つときは、手首をしなやかにし、マレットを垂直に上下に動かすことが大切です。



音板はどの音板でも図のように「節」と呼ばれる音の出ない点が二つあります。音板を支えている紐はこの位置にあります。「節」の近くは良い音が出ません。最良の音が出るように音板の中央を打ってください。

マレットは大きくて軟質のものはまろやかな低い音。軽くて硬いものは澄んだ高音がでますのでマレットの選択は非常に重要です。